

【令和8年2月8日開催 会場：日立システムズホール仙台 コンサートホール】

## 第46回（公社）宮城県芸術協会音楽コンクール ピアノ部門 予選

上級

予選通過者番号

2	3	4	5	6					
---	---	---	---	---	--	--	--	--	--

審査講評：古賀 望子 審査員長

古典派のソナタを理解することは、それ以降の作品を学んでいくうえでも非常に重要です。本日演奏された皆さんの演奏からは、ソナタ形式をしっかりと意識した演奏が多く聴かれましたが、今後は調性や和声の流れにも目を向けることで、音楽表現はさらに深まっていくでしょう。

絵を描くときに、濃淡や筆使いを変えることで立体感や奥行きが生まれるように、ピアノにおいても、調性やハーモニー、リズムの変化に応じて音色やタッチを工夫することで、音楽に立体感が生まれ、テーマごとのキャラクターがより際立ってきます。

特に今回の課題である第1楽章では、提示部における第1主題と第2主題の性格の違いを的確にとらえると同時に、その間をつなぐ和声の変化や転調によって音楽がどのように展開していくのかを感じ取りながら演奏することが大切です。各テーマの特徴と、それにふさわしい音色を考え、これからは自分なりのイメージをもって演奏に取り組んでください。

特級

予選通過者番号

1	2	3	4	5	7	8	11		
---	---	---	---	---	---	---	----	--	--

審査講評：古賀 望子 審査員長

特級部門では、時代や作風の異なる多彩な作品が演奏され、それぞれが自分の音楽を表現しようとする姿勢が感じられる、良い演奏を多く聴かせていただきました。高い完成度を目指すうえでは、テクニック上の難しさに意識が集中しすぎて、音楽の呼吸や流れが失われないよう注意することが大切です。「今、この音楽で何を伝えようとしているのか」を常に意識しながら演奏に取り組んでみてください。

転調や和声の変化は、物語の中で場面が変わったり、新たな人物の登場にたとえることができます。場面やストーリーの展開に応じて語り口や声色を変えるように、音色やタッチ、響きの違いを工夫することで、音楽にはより説得力が生まれます。

聴く人、音楽を届ける相手を常に思い描きながら、曲全体を見渡して演奏することで、技術と表現が自然に結びつき、聴く人の心により深く届く音楽へとつながっていくでしょう。